**令和６年度　第１回　ヨコハマ国際まちづくり推進委員会　会議録**

|  |  |
| --- | --- |
| 日時 | 令和６年６月７日（金）14時00分～15時30分 |
| 開催場所 | 市庁舎18階共用会議室　さくら14 |
| 出席者 | 小野﨑委員長、木村委員、栗田委員、全委員、福山委員、バートン委員、細谷委員、　　　　　　四元委員 |
| 欠席者 | 北川委員、鬼頭委員、坪谷委員 |
| 開催形態 | 公開（傍聴者１人） |

議事（１）　委員長の選任等

【決定事項】

・委員長として小野﨑委員を選出。また、委員長職務代理者については、小野﨑委員長からの指名により、

細谷委員に決定。

議事（２）　令和６年度国際局運営方針について

【主な意見】

・教育の国際化は重要なこととなっている。国際局と他の部署がどのように連携しているのか聞きたい。

→主な連携は教育委員会、こども青少年局、総務局危機管理課、広報として政策局。

他局からも国際局と連携して外国人の方への施策を一緒に取り組んでいきたいというお話しをいただき関係局とのつながりは広がっている。（事務局）

・縦割りはないということ？

→他局との繋がりは増えている。（事務局）

議事（３）　令和６年度横浜市世界を目指す若者応援事業選考等の進め方について

【主な意見】

・特になし

・選考等部会の部会員について決定（※当該部分の議論は非公開）。

報告（１）　令和６年度外国人意識調査の実施について

【主な意見】

・アンケートの取り方はYESとNOの２択か、５段階評価か、どういう形式なのか？

→選択制でお答えいただいている。ただしその他の自由記載を用意している。

最後には横浜市に取り組んで欲しいことという自由記載欄がある。（事務局）

・次へつなげるためにデータが大事だ。どう統計的に比較検討分析するか？　国ごとのＴ検定、居住年数による違いの分析。あるいは楽しい、難しい等の単語の多さの分析等、いろいろな形で分析して欲しい。

　データをどう扱うか。情報をどう扱うかが重要だ。

→キーワードの検出などご意見を参考にさせていただき検証していきたい。

内容については、データサイエンスの部署と協力し考えた。分析する際にも協力をもらいながらすすめたい。

（事務局）

・意味のあるクロス集計を取っていただくことが重要だ。どういう人がどういうことに困っているのか深く知ることが重要。

　学歴、出身地によって困り方が違い、求める支援の内容が違う。

　外国籍の方の中には、横浜でも母国で培った経験や技術を用いて活躍したいと考えている人が多くいる。そういうことを含めて分析して欲しい。

・５年ぶりということだが前回の回答率はどれくらいか？

→35.3％（事務局）

・アンケートをとって終わりにならないように施策に活かすことを頑張って欲しい。

→施策にいかに反映していくかが大切だと思っている。

　調査票案を作るうえで、各局にヒアリングをしながら、各局が反映しやすいように作成した。無駄にならないように活かしていきたいと思っている。（事務局）

・外国人意識調査が届くと、ラウンジに問合せがある可能性がある。そういう時は局から来ていただけるのか？

　また、スペイン語には対応していないのか？

→問合せについて対応のQAを作成しラウンジ、YOKE、区役所の窓口へ周知予定。

　言語については人口の割合で検討した。スペイン語は今回は作成していない。（事務局）

・5000人の内訳は永住者、短期滞在者の区別なしか？

→そうだ。（事務局）

・内容はどのようなものか？

→日本語について、情報の入手方法、生活の満足度・困っていること、子育て・教育について、住まいと環境について、防災について、仕事について、人権・多文化共生について、地域活動について、その他、令和元年との比較をしつつ追加項目を検討した。（事務局）

・事前に調査票を見せていただけると改善案があるかもしれない。

→タイミングがあわず内容についてはすでに翻訳済みである。ご意見は次回に反映させていただきたい。

（事務局）

・５年前とった集団と違う集団か？同じ人が入っていることはあるか？

→同じ人が入っている可能性はある。（事務局）

・同じ人に聞くことで５年間の横浜市の施策がどのように反映したか、変化がわかる。

　今回も無記名か？

→無記名だ。国籍、地域、居住年数、何区に住んでいるか、年齢までは盛り込んでいる。（事務局）

・無作為だから何年定住しているか関係なくアンケートしているが、滞在年数が短い人だけ取り出してのクロス集計は可能か？

→クロス集計は可能だ。（事務局）

・円安で相対的に賃金が低い中でなぜ日本を選ぶのかが知りたい。日本文化が好きなのか、治安や住環境が良いからか、コミュニティがあるからか、といったことはわからないのか？

→ヨコハマに住む理由は何かという質問で、文化が好きだからか、仕事・転勤なのか、聞く項目が細かくあるので、その質問と住んでいる年数で分かるかもしれない。（事務局）

報告（２）　横浜市地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のための基本的な方針及びアクションプランの策定について

【主な意見】

・このアクションプランには人材育成という視点は入っているのか？

　ボランティアではなく専門的な人を育成するために大学の修士課程等に積極的に人を送り込む等考えているのか？

→ボランティアを中心におこなっている。

　地域日本語教室の方々にどんな課題があるのか、今後調査アンケートを実施する。課題には、ボランティア不足や高齢化のため、なかなか学習の受入れができないということがあがる。大学とは、学習支援教室にボランティアとして大学生が入る形で連携している。

ボランティアの人材育成、教え方の向上や状況に合わせたアプローチの仕方は研修等を実施していきたい。

大学の専門機関と連携して、そういったことを盛り込んでいきたいと考えている。（事務局）

・今日は段取りの説明で、方針については別途説明があるということか？

→そうだ。（事務局）

報告（３）　第９回アフリカ開発会議（TICAD９）について

【主な意見】

・横浜での開催は今回で４回目ということで、自治体では最多ということか？

→東京が３回ということなので、横浜市が一番多い。（事務局）

・アフリカとの連携を重視する理由は何か？

→これまで培ってきたアフリカとの交流を活かすこと、後は、アフリカが非常に発展を遂げていることから、交流することで双方にメリットがあると考えている。

報告（４）　横浜市のウクライナ避難民支援について

【主な意見】

・就労支援をされているということだが、どれくらいの方が支援を受けて、どれくらいの方が就労できているのか？

→現在130名の避難民がいる。そのうち80名くらいが就労世代。そのうち約50名が働きたいと思っている。その中で、約40名が就労できている。就労といっても正社員ではない人が多数いらっしゃる。今後は働く回数を増やす等の支援をしていくことが課題である。（事務局）

資料

（１）委員名簿

（２）令和６年度国際局事業概要

（３）横浜市地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のための基本的な方針及びアクションプランの策定について

（４）令和６年度横浜市世界を目指す若者応援事業選考等の進め方について

（５）令和６年度外国人意識調査の実施について

（６）第９回アフリカ開発会議（TICAD9）について

（７）横浜市のウクライナ避難民支援について

特記事項

・令和６年度第２回ヨコハマ国際まちづくり推進委員会は11月頃開催予定